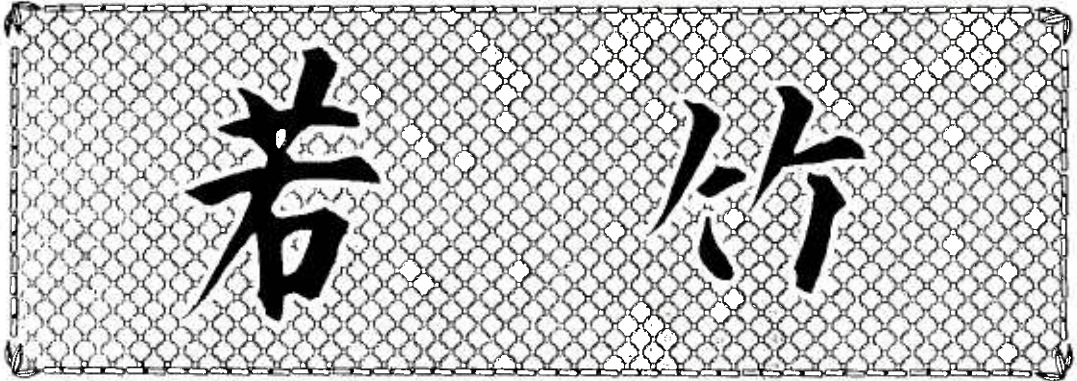


第三十五号



天皇陛下御在位十年奉祝パレード



愛媛県神道青年会

平成十二年度 愛媛県神道青年会 活動計画

四月十八日

神青協定例総会

(東京都)

五月九日

定例総会

(松山市)

五月十八日

第四回地区協神道行法錬成会

(香川県)

五月十九日

地区協役員会

(香川県)

六月

会報「若竹」 第三十五号 発行

八月二・三日

第六回地区協総会研修会

(徳島県)

八月二十三・二十四日

神青協 夏期セミナー

(東京都)

九月

観月神楽の夕べ

十月

会報「若竹」 第三十六号 発行

十月下旬

初詣ポスター製作・発送

十一月二十五日

三島・森田両烈士慰霊祭

(松山市)

一月十六日

臨時総会・新年互礼会

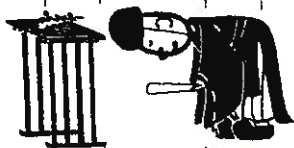
(松山市)

その他

役員会

冊子編集委員会

ホームページ開設準備



<b>【神社庁助成金】</b> (金二十万円也) 平成十一年度助成金 <b>【平成十一年度寄付助成芳名】</b> 東予 (金十万円也)		石鎚神社 (金五万円也)	大山祇神社 (金三万五千円也)	喜多浦八幡大神神社 (金三万円也)	一宮神社 盛八幡大神社 伊曾乃神社 (金二万円也)	吹揚神社 護運玉甲賀益八幡神社 (金一万五千円也)	大井八幡大神社 (金一万円也)	神社庁												
西条支部 殿	周桑支部 殿	宮原 浄人 殿	佐藤伊都男 殿	高橋 佳幹 殿	石川 漢見 殿	平田 茂光 殿	宮本 坦 殿	田窪 吉典 殿	越智 基晃 殿	近藤 儀貞 殿	大岡 忠臣 殿	矢野 直臣 殿	葛城 光彦 殿	桧垣 壮次 殿	堀川 泰規 殿	藤原 豁博 殿	田邊 捷 殿	西村 純子 殿	沼崎 守文 殿	矢野 宗保 殿
神社庁 (金五千元也)	風伯神社 三皇神社 西條神社 大西神社 高浜八幡神社 (金三千元也)	土居神社 黒嶋神社 川之江八幡神社 中予 (金十万円也)	伊豫豆比古命神社 (金五万円也)	愛媛縣護國神社 (金四万円也)	神社庁 (金三万円也)	神社庁 (金二万五千円也)	神社庁 (金二万円也)	神社庁	橋新宮神社 嘉母神社 玉生八幡神社 浜上神社 矢矧神社 石岡神社 瀧神社 萩岡神社 保内八幡神社 飯積神社 大浜八幡大神社 三嶋神社 須賀神社 熊野神社 生名八幡神社 姫坂神社 (金八千元也)	十亀 興美 殿 三島 喜徳 殿 馬越 祥穂 殿 矢野 哲夫 殿 高橋 幸意 殿 井上 千賀司 殿 田窪 多理甫 殿 飯尾 宏隆 殿 櫛部 浄文 殿 大三島支部 殿	神社庁 殿	神社庁 殿	神社庁 殿	神社庁 殿	神社庁 殿	神社庁 殿	久万支部 殿	松山支部 殿	伊予支部 殿	

伊曾能神社	阿沼美神社	高忍日壳神社	天満神社	神社庁	桑原八幡神社 (金五千元也)	正八幡神社	波賀部神社	三島神社	惠依彌二名神社	川上神社	三島神社	還熊八幡神社	三嶋大明神社	井手神社	八幡神社	忽那島八幡宮	雄郡神社	(金一万元也)	大宮八幡神社	嚴島神社
武市盛幸殿	大内信麿殿	後藤正宜殿	武智成保殿	東温支部殿	石丸典良殿	権名津千風殿	武智彰宏殿	能田隆三殿	高市慶久殿	野口泰治殿	横田清光殿	玉井次明殿	武智裕殿	横田貞子殿	小野義興殿	大宮四郎殿	高市誠司殿		眞鍋和敏殿	柳原幸殿

(金二万元也) 神社庁	和靈神社 (金三万元也)	廣田神社 南予	玉生八幡大神社 (金三千元也)	三島神社	阿沼美神社	南山神社	立石神社	天満天神社	三島神社	新田神社	八坂神社	三島神社	三島神社	天満天神社	高繩神社	當田八幡神社
宇和山支部殿	三輪田元亮殿	武智盛明殿	高市良史殿	玉井貞臣殿	田内逸和殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	都築芳憲殿	高市俊次殿	武智啓殿	大内明殿	正岡重慶殿	額田重則殿

大元神社 (金三千元也)	黄幡神社	天満神社	岡森神社	大元神社	多賀神社	八坂神社 (金七千元也)	南豫護國神社 神社庁	八幡神社 (金一万元也)	神社庁	三島神社	総鎮守八幡神社	神社庁	神社庁	神社庁	宇和海支部殿
矢野賀久殿	青木武司殿	宮本稚秋殿	田中良治殿	井上直隆殿	久保凸凹丸殿	阿部重満殿	前田讓殿	北字和支部殿	吉岡太瑯殿	南宇和支部殿	渡邊宣榮殿	清家貞宏殿	喜多郡支部殿	八幡浜支部殿	宇和海支部殿

【第二十八回定時総会援助金】

(金一万元也)

愛媛県神社庁

三輪田元亮

殿

和霊神社

長曾我部延昭殿

殿

愛媛県女子神職会

柳原 幸

殿

伊豫豆比古命神社

星野 暢廣

殿

厳島神社

清家 貞宏

殿

伊豫稻荷神社

後藤 正宜

殿

総鎮守八幡神社

堀 司

殿

高忍日売神社

二神 良昌

殿

多賀神社

波爾 莊

殿

客王神社

渡部 正

殿

愛媛縣護國神社

眞鍋 和敏

殿

八幡神社

眞鍋 和敏

殿

大宮八幡神社

田窪 多理甫殿

殿

【親月神楽の夕べ援助金】

(金一万二千元也)

吹揚神社

殿

(金一万元也)

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭殿

殿

愛媛県神社庁

殿

大井八幡大神社

櫛部 浄文 殿

【新年互礼会援助金】

(金二万円也)

伊豫豆比古命神社

長曾我部延昭殿

(金一万元也)

大山祇神社

三島 喜徳 殿

愛媛縣護國神社

波爾 莊 殿

大宮八幡神社

眞鍋 和敏 殿

愛媛県神社庁

眞鍋 和敏 殿

愛媛県女子神職会

清家 貞宏 殿

総鎮守八幡神社

柳原 幸 殿

厳島神社

後藤 正宜 殿

高忍日売神社

二神 良昌 殿

客王神社

二神 良昌 殿



……会員の皆様へ……

年会費納入のお願い

今年度の神道青年会の会費(八千円)を左記の所へ御入金下さい。

愛媛県神道青年会事務局

〒798-0012

宇和島市和霊町一四五 和霊神社内

TEL 0895-22-0197

Fax 0895-22-0227

振込口座

口座番号 0167022337358

口座名 愛媛県神道青年会

よろしくお願い致します。



平成十一年度活動報告

—平成十一年四月一日～平成十二年三月三十一日—  
平成十一年

四月九、十日 愛媛縣護國神社春季慰靈大祭奉仕(会長以下

4名奉仕)

四月 七日 新庁舎諸儀式小委員会～縣護國神社(会長出

席)

四月 十二日 地区協会長連絡会～伊豫豆比古命神社(会長

出席)

四月 十九日 第一回役員会～伊豫豆比古命神社

四月二十二日 神青協創立五十周年式典～東京(会長、武智、

三輪田出席)

四月二十三日 神青協第五十一回定例総会～神社本庁(会長、

三輪田出席)

五月 七日 新庁舎引越し助成(会長以下十四名助成)

五月 七日 新庁舎(榊植樹)

五月 十日 新庁舎本遷座祭(会長以下五名奉仕)

五月 十三日 新庁舎竣工式準備(会長以下十名助成)

五月 十四日 新庁舎竣工式奉仕 並 式典助成(会長以下

八名助成)

五月二十四日 護國神社正式参拝～神青協事業(会長以下四

名出席)

五月二十四日 第一回神葬祭冊子編纂委員会～三津巖島神社

六月 二日 日本会議県本部総会～松山市(会長出席)

六月 四日 祭式研修会～伊豫豆比古命神社(吉田助教)

六月 四日 神葬祭アンケート発送作業～伊豫豆比古命神社

六月 四日 第二回役員会～伊豫豆比古命神社

六月 四日 第二十八回定時総会～国際ホテル松山(三十

九名出席)

六月 十八日 地区協役員会～高知市(会長以下五名出席)

六月二十四日 北方領土返還祈願祭～根室(三輪田参加)

六月二十四日 四国四県祭式講師会特別受講～神社庁(十六

名受講)

七月 十六日 第三回役員会～伊豫豆比古命神社

八月 二日 地区協総会準備～伊豫豆比古命神社、国際ホ

テル松山(五名)

八月三、四日 第五回地区協総会研修会～国際ホテル松山(六

十七名)

八月二十五日 世界平和祈願祭～九段会館(武智、三輪田、

長曾我部参加)

八月二十五日 靖國神社慰靈祭～靖國神社(武智、三輪田、

長曾我部参加)

九月 三日 神葬祭冊子編纂打合せ～城辺・諏訪神社(吉

田邦、石村)

九月 九日 神道行法鍊成会(高知(五名参加))

九月 十一日 観月神楽(伯方町・喜多浦八幡大神神社)

九月 十六日 第二回神葬祭冊子編纂委員会(三津殿島神社)

九月 十六日 第四回役員会(伊豫豆比古命神社)

十月 二十六日 観月神楽慰労会(松山市)

十月 二十七日 第五回役員会(神社庁)

十月 二十七日 初詣ポスタ(発送準備(神社庁))

十月 三十日 天皇陛下御即位十年奉祝式典(松山市(会長以下八名助成))

十一月 九日 愛大付属中学雅楽演奏会

十一月 十八日 三輪田前庁長、波爾前副庁長慰労会(松山市(会長、吉田邦出席))

十一月 二十五日 三島・森田両烈士慰霊祭(伊豫豆比古命神社(会長以下七名奉仕))

十一月 二十六日 第六回役員会(伊豫豆比古命神社)

十一月 二十九日 地区協役員会(徳島市(会長以下五名参加))

平成十二年

一月 二十五日 新年正式参拝(縣護國神社(会長以下十一名参列))

一月 二十五日 第七回役員会(縣護國神社)

一月 二十五日 新年研修会(講師・波爾先生(全日空ホテル))

一月 二十五日

一月 二十五日

一月 二十五日

(二十二名受講)

一月 二十五日 新年互礼会(全日空ホテル(三十八名出席))

三月 五日、六日 中央研修会(秋田県(会長、三輪田、矢野、長曾我部参加))

三月 十三日 平成十一年度会計監査会(国際ホテル松山)

三月 十四日 第八回役員会(伊豫豆比古命神社)

三月 二十二日 第三回神葬祭冊子編纂委員会(三津殿島神社)

額布品のご案内

四人掛床几

長さ・180センチ 幅・33センチ 高さ44センチ

耐水幌布使用

頒布価格 一脚 一万五千元

ご注文・お問合せ

〒七九八-0012 宇和島市和霊町一四五

和霊神社内 愛媛県神道青年会事務局

TEL 0895-22-0197

Fax 0895-22-0227



## 北方領土復帰祈願祭

神道青年全国協議会創立五十周年記念事業の一環として北方領土復帰祈願祭が、平成十一年六月二十四日北海道根室市に鎮座する納沙布金刀比羅神社の境内にある北方領土返還祈願碑前にて全国の会員百七十名が参列し齋行された。

この祈願碑は神青協創立三十周年記念事業の一環として、茨城県の稲田御影石、台座には全国より送られた銘石を使用して建てられた物だと聞いている。表面は「返せ北方領土」、裏面には「一都一県二府四十三県の心をこめてここに記す」と刻まれている。

五十周年事業「次世代への継承」というテーマに基づき齋行された北方領土復帰祈願

祭に参加して、先輩諸賢が積み重ねてこられた活動を現在に継承して頂いており、また我々も次世代に継承していかなくてはと思い直し、また北方領土復帰の日迄、この思いを失うことなく活動を継続しなければならぬと改めて認識したのである。

(三輪田泰生)

世界平和祈願祭 並  
靖國神社慰霊祭

平成十一年八月二十五日午後一時、神道青年全国協議会五十周年記念事業として東京都九段の九段会館において世界平和祈願祭が執り行われ、引き続き靖國神社において三井権宮司齋主の下、全国各地より志を一つにした青年神職百余名が一同に介し、英霊の御霊をお慰めする慰霊祭が齋行された。

大東亜戦争も終結後五十有余年の歳月が流れ、経験者も高齢となり、戦争が勃発した事実も風化しつつある我が国では、戦後間も無くの混乱期にGHQによる日本弱体化計画が現在の日本に多大な影響を及ぼした感がある事は否め

ない事実である。

学校教育の腐敗、昨今の政財界の不振・不況、度重なる警察官の不祥事等、社会の混沌とする情勢はその顕著たる例である。

我々が日本人、そして神職として足下を見直す時期に直面している事は今更言うまでもないが現下の平和大国日本の礎を築いたのは紛れもなく英霊としてお祀りされている全国多数の御祭神である事を伝え、日本人としての先祖崇拜の大切さや生かされている喜びを伝える事が、我々の今なすべき事であることを再認識させられた。

(長曾我部昭一郎)





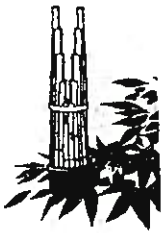
### 観月神楽の夕べ・雅楽演奏会

去る平成十一年九月十一日、第十七回観月神楽の夕べを瀬戸内の波光麗しい伯方島、喜多浦八幡大神神社にて開催させて頂きました。

日中の残暑緩む夕刻、瀬戸内海の島々に映える夕陽の中、今回お世話になります馬越宮司様のご挨拶を受け、雅楽による「君が代」をはじめ、「浦安の舞」、「越天楽」、「悠久の舞」、そして伊予神楽による「式三番舞」、「大蛇の舞」等、演奏させて頂きました。雅楽器の紹介や、伊予神楽による子供達との神事相撲を織り交ぜ、宵闇迫る午後八時頃、全ての曲目を披露し終えました。

また同年十一月九日には、当会の新しい試みとして行っている各種施設や教育機関での雅楽演奏会を当会の先輩の御紹介により愛媛大学教育学部附属中学校の文化祭にあわせ開催することが出来ました。前回の幼稚園での演奏とは又異なり、聞いていただく対象者の年齢が上がったのでどの様な反応があるのか幾分心配していましたが、予想以上の好反応を得、奉仕者一同、胸を撫で下ろしました。また生徒諸君に直に雅楽器にも触れてもらい、日本文化の一端を、その手に、その胸に抱かれた事だと思えます。

(和田正成)



### 天皇陛下御在位十年奉祝式典

今上陛下の御即位から十年を御祝する式典が、去る平成十一年十月二十一日に松山市営球場を主会場として愛媛県民一万人を集め、盛大に催されました。

厳肅な雰囲気の中、球場内の祭壇にて祭典が行われ、神社関係者、日本会議役員、また松山市内の神輿のかき手らが、玉串を捧げて皇室の安泰と日本及び世界の平和を祈願致しました。私もこの佳節となる祭典に祭員として奉仕させて頂いたいただき、静かな感動を覚えました。

この後、今治市消防音楽隊による「君が代」等の演奏、市内の神輿十数体によるかき

比べが行われ、御祝いムードは最高潮に達しました。

その後一万県民は一番町から大街道を通って千舟町へと大奉祝パレードを挙行しました。その際感動したのは、失礼ながら普段皇室の慶時に關心のなさそうな高校生までもが日の丸の小旗を振って、小聲で、それでもはつきりと「万歳」、または「おめでとう」と言っていた事でした。

こうしてパレードは「天皇陛下、万歳！」の声の途切れる事なく続き、最後に加戸愛媛県知事による万歳三唱を以つてめでたく終了しました。

(田内一弘)



## 三島・森田両烈士慰霊祭

去る平成十一年十一月二十五日、伊豫豆比古命神社に於いて、三島・森田両烈士追悼二十九周年慰霊祭が斎行された。

この慰霊祭が青年会主催としては三回目であり、今回は国民会議と別開催で、参加者は少なかつたものの、参加者は皆二人の精神の継承を誓い、又この憂国忌に内外から多数の参加を得る会と氏体ものである。

さて、昨今の国旗・国歌問題しかり、二人の目指した日本国は未だに憂うる状態のままである。二人の示した行動を風化させる事なく我々の心の糧としたものである。

尚、「憂国資料室」なるホー

ムページに事の詳細が掲載されていましてので機会があればご覧ください。  
(久保浩丸)



## 秋田県中央研修会

(旧交を温めて)

いきなりで恐縮ですが私は神道青年全国協議会・中央研修会に出席するのが大好きです。中央研修会をご存知ない方もいらつしやるでしょう。毎年会場とテーマを変えて一泊二日で行う研修会の事です。スケジュールはかなりみっちり、休憩時間にはしばしば会場の天井を見上げ、口を開いていたかも知れません。今年の場合ですと、会場(主な担当県)は秋田県。テーマは「酒」(なんとふさわしい!)でした。

全国の若手神職を迎え入れる為の様々な準備におけるご苦労は想像に難くありません。テーマに添った講演・パネル

ディスカッションを開く為の講師の方々の人選と日程調整、会場となるホテルでの宿泊・懇親会の打ち合わせ等。今回の私のような参加申し込み締め切り日以降の申し込みや、逆に急にキャンセルされる方など、またスタッフの人員確保等「大変だな」と思いつつ、お世話になり続けています。

とまあ、説明と印象は置いときまして、冒頭の「大好き」について触れたいと思います。卒業された養成機関は何処であれ、皆様にも先輩・後輩・元同僚がいらつしやると思います。学校を出て以来、年賀状だけの付き合いの人も多いと思いますが、何年振りかと思いがけない旧友と会える楽しみ!。唯でさえ数少ない神職の同年代の友人というのは

本当に少なく、貴重な存在です。その意味においても中央研修会は全国各地で活躍中の皆様が広範囲の年齢層で集う点、ある意味同窓会より楽しみです。元々開催の主旨にも含まれているのでしようが、私はこの点が一番嬉しく思います。

今年の秋田県で事務局を勤めた田村氏は私の同級生でもあり、当日彼の汗を流しながらの奮闘ぶりを目の当たりにして、私自身とても励みになりました。昔の仲間に会い、その頑張っている姿を見ると「俺も頑張らねば」という気になります。

我 愛媛神青では参加費を負担して頂いています。本来自己研鑽の研修においては自己負担が原則であると考えま

すが、そこは研修の成果を神青にお返しする事でそのありがたい補助に報いていきたいと思えます。こういう恵まれた環境の中で、今年当県からの参加者は四名と、少し淋しいものがありました。

来年二月には富山県で、そして平成十四年の開催県は愛媛です。個人的にはこれまでお世話になった各県の皆様之恩返しのもりで出来得る限りお手伝いさせていただきます。と思っております。

(矢野敬陽)



青年会御卒業

今回の総会に於いて区切りをお迎えになられました先輩をご紹介致します。

石鈍神社 楠宜

曾我部 英司 様

退会者

石鈍神社 権補宜

江藤 幸二 様

(大分石鈍教会へ奉職)

永年にわたり当会の活動・運営にご協力・ご理解を賜りました事、深く感謝致します。今後とも当会を見守りいただき尚一層のご指導・ご厚誼を賜ります様御願い申し上げます。

新入会員紹介

・鳥谷 長教  
(からすだに ながあつ)



奉職神社 湯神社

昭和四十六年 七月五日生まれ

松山市道後湯之町四一七

・長曾我部 昭一郎

(ちようそかべしやういちろう)



奉職神社 伊豫豆比古命神社

昭和四十七年 一月二十二日生まれ

松山市越智町三〇二一ー グランパレ

コートドール七〇五号

・渡部 太輔

(わたなべ たいすけ)



奉職神社 八幡神社

昭和四十九年 八月二十九日生まれ

宇和島市伊吹町一〇六四

・氏本 学

(うじもと まなぶ)



奉職神社 神明神社

昭和三十九年 十二月三十日生まれ

北宇和郡広見町畔屋二一〇一

・長曾我部 信弥

(ちようそがべ しんや)



奉職神社 伊豫豆比古命神社

昭和四十九年 四月十四日生まれ

松山市古川三二五―十五

・田内 逸知

(たうち はやとも)



奉職神社 東雲神社

昭和四十九年十一月二十六日生まれ

松山市丸之内七三―一

・武智 和剛

(たけら かずたけ)



奉職神社 徳川神社

昭和五十一年八月二十五日生まれ

松山市津吉町八八〇

・茶師神 敬篤

(やくしじん けいとく)



奉職神社 天満神社

昭和五十年 二月五日生まれ

松山市中村五―四―三―一〇五

☆祝 ご結婚☆

六月十六日、当会会員の

渡邊 平君が、京子さんと

中山町・三島神社にて永遠の

愛をお誓いになりました。

九月三十日、当会理事の

一宮 康人君が、由紀子さ

んと保内町・三島神社にて悠

久の愛の誓いをなされました。

お二人の末永いご多幸とご繁栄を会員一同心から御祈念申し上げます。



神道拝借

我々神主は一度お免状を戴くと、勉強する、しないに関わらず、悪い事をしない限り一生神主でいられる。

ある意味でぬるま湯に浸かったまま人生を送る事も可能である。

もちろん一社一宮司どころか何十社一宮司という現状から、神社経営の長としての御苦労は計り知れないものがある。

しかし、先ず以って神主の神主たる所以は第一位に「祭祀の厳修」を実践する事にありと考える。

世には「茶道華道香道剣道柔道・・・」様々な道がある。

これら如何なる道においても「心」そしてそれを表現する「カタチ」があるわけで、この「カタチ・基本」がなければ何れの道も決して成立はし

ない。神道として同様である。「カタチ」と「心」は表裏一体であることを自覚しない限り、神主として「神社」と云う高価な商品を持った単なる商売人と云われても仕方ないのではないか。

よく聞く「心さえ確りしていれば祭式作法など・・・」はもう聞き飽きた。「うんざり」である。

今回貴重なページを割いて戴き、日常の御奉仕の中で疑問に感じていた事を幾つか述べさせて頂く予定であったが、スペースの都合上取り急ぎ一例だけ取り上げる。

この例は、単に「思い込み或いは気持ちの現れ」であるうが、再確認戴くと云う意味で御理解願いたい。

一例

宮司祝詞奏上中また警蹕発声中、正中線に面した左右の

祭員及び総代参列者が自座において『斜め』に向かい平伏或いは罄折している。

一言

\* 宮司一拝及び自座列拝は参列者全員に関わる行事であり、斜めに向き行く作法が伴う。

\* 祝詞奏上は宮司が神様に奏上するものであり、閉扉等に伴う警蹕発声も同様に宮司或いは警蹕所役の行事であり、祭員参列者自らの行事ではない事を御理解願いたい。

\* 『祝詞奏上及び祝詞奏上中又は警蹕発声中は体を斜めにする事なく其のまま体を伏すのである』

こういう事をお伝え申し上げると、お決まりのお返事で「旧祭式では・・・」と決して旧祭式にもこんな作

法はない。旧祭式をお勉強する事も結構だが、努めて今の祭式をお勉強して戴きたいものである。一神主さんを正す事は祭式研修会等を通して簡単に出来るが、如何せん県内総代祭儀参列者に限らずこの作法は蔓延しており、早急に神職の皆様には御指導御改善願いたい。

その他無理難題な事ではなく、極当たり前の身近な事にも少々疑問を感じているが、別の機会とさせて頂く。

免にも角にも「神社祭式同行事作法」の本を毎日とは申しませんが、週に一度いや月に一度で結構です、是非目を通して戴きたい。

きつと「オヤ」「なるほど」とお思いなるに違いない。



神道  
絵日記

# 新緑に素白



平成十二年六月 作：氏本学

神道  
絵日記

# 雷神と花嫁たち



平成十二年六月 作：氏本学

## 編集後記

先ず「若竹三十五号」発行、大変遅  
れました事深くお詫び申し上げます。  
今後は尚一層紙面の充実を図り、会の  
広報誌として恥かしくない体裁を整え  
たいと思います。

体裁といえは昨今、神職としての資  
質を問われる諸問題が蔓延しています。  
私等もそうですが、日々の奉仕の中に  
「甘え」や「妥協」が年を負うことに  
多くなってきた様に思われます。  
個人個人の「神職」という概念に差異  
は勿論ありますが、なにより先ず「  
社会人」として、そして「人間」とし  
ての常識や思いやりを第一に考え、そ  
の上で神職というものの理想像を追い  
かけたいと思います。  
「明浄正直」。今一度この理想を自分  
の中で考え、日々の奉仕、また暮らしの  
中の「定規」にしたいと思えます。  
…雨の境内にて…